

鳥獣被害対策 ICT 化（遠隔操作システム）実証事業

令和 5 年度再実証に係る効果検証報告

1 再実証に至った経緯

令和 4 年度の実証事業では、ソーラーパネルからバッテリー、更にはバッテリーから遠隔操作システムへの送電状況の不具合などが発生し、効果検証に必要なデータが得られなかったことから、システムが正常に作動するよう、バッテリー（定格容量 7.2Ah→36Ah）とコントローラー（5A→10A）を交換するとともに、一部実証場所を変更するなどし、再度、実証事業を行い、本システムの有効性について効果検証を行うこととした。

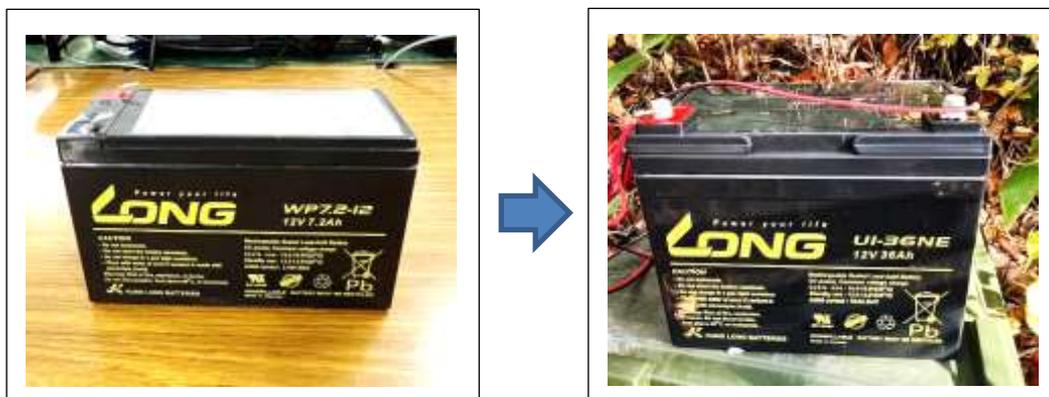
2 実証期間

令和 5 年 4 月 11 日～9 月 30 日（173 日間）

3 付属機器の交換

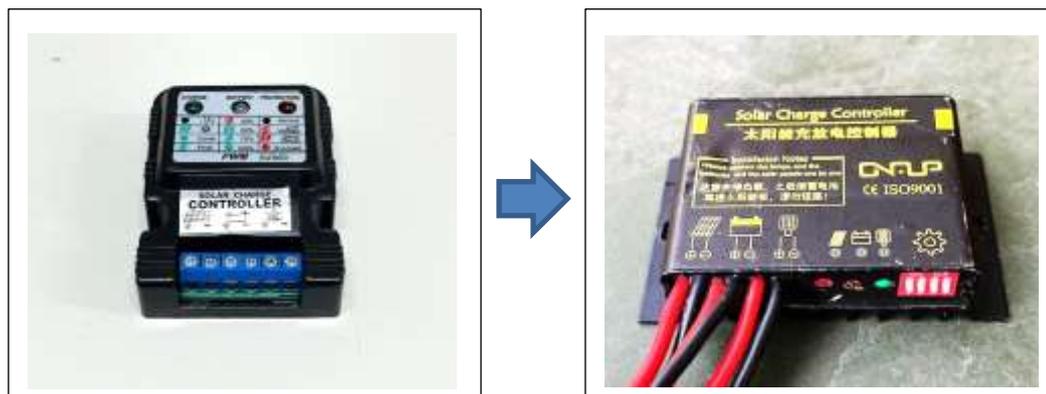
(1) バッテリーの交換

十分な動作時間を確保するため、前年度の試行を参考に、定格容量（7.2Ah→36Ah）を増量した。



(2) コントローラー（過充電防止）の交換

ソーラーパネルからバッテリーへの効率的な充電確保のため、最大入力電流値（5A→10A）を増量した。



4 実証場所

(1)滝寺地内（前年度の設置場所から変更）



(2)吉川区頭法寺地内（前年度と同一箇所に設置）

5 事業実績

- ・ 付属機器を交換したものの、ソーラーパネルからの給電状況が改善されず、10日間程度の間隔でバッテリー充電を行いながらの実証となった。
 - ・ 実証協力者の猟友会上越支部によると、タヌキ2頭、ハクビシン1頭を当システムにより捕獲したものの、鉄棒の間から逃げられてしまった。
- 一方、捕獲対象のイノシシについては、柿崎支部・上越支部ともに箱罠に近づく姿をセンサーカメラで確認したものの、箱罠の中に個体が完全に入りきらない、または親子のイノシシのうち幼獣のみが侵入し、成獣が箱罠に入らなかったことから、捕獲までには至らなかった。

(センサーカメラから送信される動画の様子)



支 部 名	上越支部	柿崎支部
実証場所	滝寺地内	吉川区顕法寺地内
4/14		スマシシ本体に不具合が発生し、メーカーに修理依頼
4/24	カメラが繋がらない状態が発生（原因はバッテリーの充電不足と考えられる）	
5/ 2		スマシシ本体の修理が完了し、システム再起動
5/ 9	バッテリーを充電し、システム再起動	
5/11	現地機器の点検と動作確認	現地機器の点検と動作確認
5/16		電動トリガー不具合により回収、メーカーに修理依頼
5/18	現地機器の点検と動作確認	
5/21	タヌキ 2 頭を捕獲（逃走）	
5/26		電動トリガーの修理が完了し、システム再起動
6/13		現地機器の点検と動作確認
6/27	現地機器の点検と動作確認	現地機器の点検と動作確認
7/13	現地機器の点検と動作確認	現地機器の点検と動作確認
7/31	現地機器の点検と動作確認	
8/14		現地機器の点検と動作確認
8/25	現地機器の点検と動作確認	
8/30	ハクビシン 1 頭を捕獲（逃走）	
9/ 5		現地機器の点検と動作確認
9/14	現地機器の点検と動作確認	現地機器の点検と動作確認

6 結 論

- ・今回使用したシステムは、機器類の不具合が多々発生し、導入の可否を判断するのに必要なデータが得られなかったことから、同様のシステムを開発・提供している他社の遠隔操作システムを改めて導入し、令和 6 年度において再度、効果検証を行い、令和 7 年度以降の導入の可能性を検討する。